

資 料 提 供			
月 日	発表者	問合せ先	
		電話番号	担当者
令和8年9月18日(金) 14時	関西広域連合本部事務局 計画課	06-4803-5609	鈴木、松浦

「関西デジタル・マンス」「関西 DX サミット」の開催及び 「KANSAI DX AWARD 2026」の受賞者決定について

関西広域連合は、関西のDX推進の機運醸成を目的として、令和5年度に関西経済連合会等とともに「関西デジタル・マンス実行委員会」（事務局：公益社団法人 関西経済連合会）を組織し、毎年10月に関西広域でのDX推進強化月間「関西デジタル・マンス」として、官民連携による様々な取組を実施しています。

今年度も、期間中、関西の企業や行政等が一丸となり、DXに関するイベントを多数開催するとともに、10月29日には、その締めくくりとして、「関西DXサミット」を開催します。また、関西における先進的なDXの取り組みを発掘・表彰する「KANSAI DX AWARD 2026」の受賞者が決定いたしましたので、併せてお知らせします。

記

1 関西デジタル・マンス実施期間

2026年10月1日（木）～10月31日（土）

2 オープニングメッセージ

「KANSAI DX AWARD 2026」審査委員長を務める慶應義塾大学医学部 宮田 裕章（みやた ひろあき）教授をはじめとする多数の方々からのメッセージを、10月1日に以下のURLに掲載します。

[URL] <https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/digital-month/>

3 関西デジタル・マンス関連イベント

以下のURLに掲載しています。

[URL] <https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/digital-month/>

4 関西 DX サミット

(1)日時：10月29日（木）13：00～17：30

(2)場所：QUINTBRIDGE（大阪市都島区東野田町4-15-82）※オンライン同時配信
参加申込、イベント詳細は以下のURLに掲載します。

[URL] <https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/digital-month/>

5 KANSAI DX AWARD 2026 受賞団体一覧

詳細は、別添をご覧ください。

2026 年 9 月 18 日

関西デジタル・マンス実行委員会
公益社団法人 関西経済連合会
関西広域連合
総務省 近畿総合通信局
経済産業省 近畿経済産業局
一般財団法人 関西情報センター
独立行政法人 中小企業基盤整備機構

「関西デジタル・マンス」、「関西 DX サミット」の開催 および「KANSAI DX AWARD 2026」の受賞者決定について



関西デジタル・マンス実行委員会（事務局：関西経済連合会）は、関西における DX 推進の機運を醸成するため、今年度も「関西デジタル・マンス」を開催いたします。

「関西デジタル・マンス」は、毎年 10 月を関西広域における DX（デジタルトランスフォーメーション）推進強化月間と定め、企業・団体・自治体等が連携し、DX に関する多様な取り組みを展開するものです。期間中は、関西各地で多数の関連イベントを開催いたします。

この期間を象徴するイベントとして、「関西 DX サミット」を開催いたします。本イベントでは、パナソニックホールディングス株式会社執行役員、グループ CIO の近田英靖氏をお招きし、特別講演を実施する予定です。また、関西における先進的な DX の取り組みを発掘・表彰する「KANSAI DX AWARD 2026」の表彰式を行います。あわせて、同 AWARD の受賞者が決定いたしましたので、お知らせいたします。

表彰式では、同 AWARD の審査委員長を務める慶應義塾大学医学部の宮田裕章教授が登壇し、審査を通じて見えた今年度の取り組みの特徴や、今後の関西の DX への期待について総評を述べます。関西デジタル・マンス実行委員会は、これらの取り組みを通じて、関西の優れた DX の取り組みを広く発信するとともに、「DX 先進地域としての関西」としてのブランド力向上に努めてまいります。

本イベントおよび受賞企業についてぜひご取材下さいますようお願い申し上げます。

【関西デジタル・マンスについて】

1. 関西デジタル・マンス実施期間

2026年10月1日（木）～10月31日（土）

2. オープニングメッセージ

「KANSAI DX AWARD 2026」審査委員長を務める慶應義塾大学医学部 宮田裕章教授をはじめ、多数の方々から関西デジタル・マンス開催のオープニングメッセージをいただいております。10月1日に下記URLに掲載予定ですので、ご覧ください。

(URL) <https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/digital-month/>

3. 関西デジタル・マンス関連イベント

関西デジタル・マンスの一環として、企業・団体が主催するイベントを紹介しております。下記URLよりご覧ください。

(URL) <https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/digital-month/>

※引き続き関連イベントの募集をしております。

【関西 DX サミットおよび KANSAI DX AWARD について】

4. 関西 DX サミット

■日 時：2026年10月29日（木）13:00～17:30

■対 象：DXの推進にご関心をお持ちの方※企業・団体・自治体・大学など所属を問いません

■場 所：QUINTBRIDGE（大阪市都島区東野田町4-15-82）＊オンライン同時配信

■プログラム

○開会挨拶

○特別講演

講演タイトル：「企業変革を駆動する DX・AI 戦略 ― 全社実装に挑むパナソニックの実践と経営の意思決定―（仮）」

講師：パナソニックホールディングス株式会社 執行役員、グループCIO 近田英靖氏

○KANSAI DX AWARD 2026 表彰式

総評（慶應義塾大学 医学部教授 宮田裕章氏（KANSAI DX AWARD 審査委員長））

受賞者発表

受賞者 取り組み紹介

※終了後に交流会を実施予定（交流会のみの参加はご遠慮ください。）

【ご参加申込はこちら】

<https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/digital-month/>

5. 「KANSAI DX AWARD 2026」受賞企業・団体一覧

＜グランプリ＞

[株式会社三協](#)

＜近畿総合通信局長賞＞

[尼崎市](#)

＜近畿経済産業局長賞＞

[能勢鋼材株式会社](#)

＜金賞（大企業部門）＞

[カナデビア株式会社](#)

[KURA おさかなファーム株式会社](#)

＜金賞（中堅・中小企業部門）＞

[株式会社エヌエスケケー](#)

[株式会社香山組](#)

[株式会社ミヨシテック](#)

＜金賞（自治体部門）＞

[福井県](#)

[舞鶴市](#)

＜特別賞＞

[関西テレビ放送株式会社](#)

※本年度は、自治体による優れたDXの取り組みが多数見られたことから、それらを適切に評価し広く発信するため、「金賞（自治体部門）」を新設しました。

※受賞者の概要については別紙1をご参照ください。

【取材・お問合せについて】

6. 取材要領

・本イベントをご取材いただく場合、下記4点を明記し、お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

【必要情報】お名前、ご所属、電話番号（当日連絡先）、スチール撮影有無

・自社取材腕章を着用の上、名刺をご準備ください。

・取材および写真撮影は、指定された範囲内で行っていただきますようお願いいたします。

7. お問合せ先

関西経済連合会 企画広報部

大場: s-oba@kankeiren.or.jp 080-9945-0158

田邊: r-tanabe@kankeiren.or.jp 080-7293-4178

- ・ 参考資料：関西 DX 戦略 Next ～DX の好循環で、未来の価値をつくる～
(URL) <https://www.kankeiren.or.jp/kansai-dx/dx-senryaku/>
- ・ 会場協力 NTT 西日本 QUINTBRIDGE
QUINTBRIDGE（クイントブリッジ）は、NTT 西日本が運営するオープンイノベーション施設です。企業・スタートアップ・自治体・大学などが自由に交流し、それぞれの思いやアセットを共有しながら共創を進め、実社会での活用をめざします。会員とともに社会課題の解決と未来社会の創造を成し遂げ、ウェルビーイングが実感できる社会を実現することを目的としています。
(URL) <https://www.quintbridge.jp/>

以 上

別紙1 KANSAI DX AWARD 2026 各賞の説明および受賞者一覧

<各賞の説明>

グランプリ	：総合的に最も評価の高い企業、教育・研究機関、自治体を表彰する。
近畿総合通信局長賞	：ICT を利活用し、地域の魅力向上・活性化につながる DX の取り組みを評価する。
近畿経済産業局長賞	：地域経済の活性化に貢献し、地域のモデルとなるような DX の取り組みを評価する。
金賞(大企業部門)	：大企業から、総合的に評価の高い企業を表彰する。
金賞(中堅・中小企業部門)	：中堅・中小企業から、総合的に評価の高い企業を表彰する。
金賞(自治体部門)	：自治体から、総合的に評価の高い団体を表彰する
特別賞	：審査得点枠を超える特筆すべき取り組みを評価する。

<受賞者一覧>

賞タイトル	会社・団体名	取り組み概要
グランプリ	株式会社三協 (大阪府東大阪市) 【事業内容：倉庫業】	・自社開発の WMS を中核に、物流業務の標準化・見える化・多能工化を推進。「1 日 1 時間から働ける物流センター」を実現し、子育て世代をはじめ、多様な人材が能力を発揮できる持続可能な物流モデルを構築した。 ・自社物流センターで培った DX・業務改善のノウハウを「物流改善代行」として外部企業へ展開。システム導入だけでなくとどまらず、現場分析から改善策の設計・実行までを支援し、物流業の枠を超えた高付加価値な事業モデルへと進化した。 ・変化の激しい時代に対応したアジャイル型の DX 推進体制の確立に向け、「採用・配置・育成・評価・風土」を一体的に改革した。 ・現場主導型の DX 推進により、生成 AI やノーコードツールを活用した、迅速かつ低コストな草の根 DX を実現し、業務効率化と市民サービスの向上につなげた。
近畿総合通信局長賞	尼崎市 (兵庫県尼崎市) 【事業内容：地方自治体】	
近畿経済産業局長賞	能勢鋼材株式会社 (滋賀県彦根市) 【事業内容：鉄鋼流通業】	・現場課題の解決を起点に滋賀大学との共同研究を進め、大学発ベンチャー「ディナレッジ株式会社」を設立。AI・データ分析・数理最適化を活用した実践的な DX を推進した。 ・自社を実証フィールドとして開発した AI 配車アプリ「Hi-SIA (ハイシア)」を製品化し社外へ展開。DX の成果を新たな事業創出へと発展させた。
金賞 (大企業部門)	カナデビア株式会社 (大阪府大阪市) 【事業内容：製造業】	・「事業 DX」「企業 DX」「DX 基盤」の 3 本柱のもと、IoT・AI・データ活用を幅広い事業領域に展開し、全社一体で DX を推進した。 ・ごみ焼却発電施設の運営高度化、バーチャルミュージアムによる実物大感覚型情報発信、IoT 基盤「EVOLIoT」の展開を通じて、製品提供にとどまらない新たな顧客価値を創出した。
	KURA おさかなファーム株式会社 (和歌山県日高郡) 【事業内容：養殖業、卸売業】	・AI 給餌機や魚体重推定システムを活用したスマート養殖を展開し、給餌量の削減や省力化を実現。生産者と連携した安定供給体制を構築した。 ・国際的基準を満たした日本初のオーガニックフィッシュとして、認証取得した「オーガニックはまち」の販路拡大に加え、廃校施設を活用した漁業創生拠点を整備し、持続可能な水産業と地域活性化を推進した。

金賞 (中堅・中小企業部門)	株式会社 エヌエスケケー (兵庫県神戸市) 【事業内容：通信機器販売業】	・全社員参加の「1日1改善」と生成AIの活用により、接客品質向上やシフト作成の自動化など数多くの現場改善を実現し、全員参加型のDX文化を構築した。 ・自社で培ったノウハウを「DX会社見学会」や「AI特化型勉強会」として地域企業へ展開し、新たな収益事業を創出した。
	株式会社香山組 (兵庫県尼崎市) 【事業内容：建設業】	・新職域「建設ディレクター」の導入や、「デジタル安全掲示板」の発案など、建設現場のペーパーレス化を推進し、働き方改革を実現した。 ・完全ペーパーレス化により残業時間や紙使用量を大幅に削減するとともに、業界全体への普及・展開を推進した。
	株式会社ミヨシテック (大阪府寝屋川市) 【事業内容：建設業】	・現場社員が主役となる「全員DX」を推進し、700本を超える業務アプリの開発やAI活用により、生産性向上と業務改革を実現した。 ・DXで生み出した時間を新規事業創出やM&Aによる事業拡大へ活用するとともに、そのノウハウを地域企業へ展開した。
金賞 (自治体部門)	福井県 (福井県) 【事業内容：地方自治体】	・DX推進本部やDXリーダー制度を中心に、全庁的な業務改革と人材育成を推進し、デジタル活用が定着する組織文化を形成した。 ・全国初のデジタル地域通貨「はぴコイン」により県・市町・民間が連携したデジタル基盤を整備するとともに、「地方発AX」の実現に向けた取組を推進した。
	舞鶴市 (京都府舞鶴市) 【事業内容：地方自治体】	・「日本一働きやすい市役所」を掲げ、ChromebookやGemini、kintoneを全庁導入。柔軟な働き方と大幅な業務効率化を実現した。 ・創出した時間を住民対応や創造的業務へ還元するとともに、「まいづるDXフォーラム」などを通じて自治体DXの普及を牽引した。
特別賞	関西テレビ放送株式会社 (大阪府大阪市) 【事業内容：放送業】	・生成AI・音声合成・RAGを活用し、長年親しまれてきた「ハチエモン」をリアルタイムで会話できるAIキャラクターへ進化。放送局と視聴者をつなぐ新たな接点を創出した。 ・過去のキャラクター資産を生成AI時代の価値へ転換し、イベントや教育機関との連携を通じて、放送局キャラクターの新たな活用モデルを切り拓いた。